

NEWS LETTER (調査レポート)

ソニー生命調べ／全国の中高生 1,000 名(中学生 200 名・高校生 800 名)にアンケート

中高生が思い描く将来についての意識調査 2025**中高生の将来の夢**

男子中学生 1 位「好きなことを仕事にする」、女子中学生 1 位「趣味を充実させて生きる」
高校生では男子・女子ともに「安定した毎日を送る」が 1 位

将来になりたい職業

男子中学生 1 位は調査開始以来初の「公務員」、女子中学生 1 位「芸能人」
高校生 男子・女子ともに 1 位「公務員」

「将来、子どもがほしい」中学生の 57%、高校生の 52%、
「子どもがほしいと思わない」は女子高校生の 3 人に 1 人

中高生の生きがい

男子中学生、男子高校生では 1 位「ゲーム」
女子中学生 1 位「推し活」、女子高校生 1 位「推し活」「音楽」

「同性同士が付き合っても違和感はない」男子高校生と女子高校生では 28 ポイント差

中高生が“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人 男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」

ソニー生命では、中高生の意識と実態を明らかにするために、今回で 6 回目となる「中高生が思い描く将来についての意識調査」を行いましたので、お知らせいたします。

■ POINT 1**⇒中高生の将来の夢**

男子中学生 1 位「好きなことを仕事にする」、女子中学生 1 位「趣味を充実させて生きる」
高校生では男子・女子ともに「安定した毎日を送る」が 1 位

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、将来の夢について聞きました。

中学生についてみると、「好きなことを仕事にする」(53.5%)が最も高くなり、次いで、「安定した毎日を送る」(50.5%)、「趣味を充実させて生きる」(50.0%)、「素敵な相手と恋愛・結婚する」(40.0%)、「あたたかい家庭を築く」(38.5%)となりました。

男女別にみると、男子の 1 位は「好きなことを仕事にする」(52.0%)、女子の 1 位は「趣味を充実させて生きる」(60.0%)となりました。また、女子の 1 位となった「趣味を充実させて生きる」(男子 40.0%、女子 60.0%)では、男子と比べて女子のほうが 20.0 ポイント高くなりました。

高校生についてみると、「安定した毎日を送る」(49.9%)が最も高くなり、次いで、「好きなことを仕事にする」「趣味を充実させて生きる」(いずれも 43.5%)、「素敵な相手と恋愛・結婚する」(34.1%)、「お金持ちになる」(31.4%)となりました。

男女別にみると、男子・女子ともに 1 位は「安定した毎日を送る」(男子 45.3%、女子 54.5%)でした。次いで、男子では 2 位「趣味を充実させて生きる」(39.5%)、3 位「好きなことを仕事にする」(37.8%)、女子では 2 位「好きなことを仕事にする」(49.3%)、3 位「趣味を充実させて生きる」(47.5%)でした。(p.5)

■ POINT 2**⇒将来になりたい職業**

男子中学生 1 位は調査開始以来初の「公務員」、女子中学生 1 位「芸能人」
高校生 男子・女子ともに 1 位「公務員」

将来になりたい職業を聞きました。

中学生についてみると、男子中学生では 1 位「公務員」(16.0%)、2 位「プロスポーツ選手」(15.0%)、3 位「YouTuber などの動画投稿者」(14.0%)、4 位「会社員」(11.0%)、5 位「IT エンジニア・プログラマー」(10.0%)となりました。

女子中学生では 1 位「歌手・俳優・声優などの芸能人」(15.0%)、2 位「公務員」(14.0%)、3 位「会社員」「絵を描く職業(漫画家・

NEWS LETTER (調査レポート)

イラストレーター・アニメーター」(いずれも 13.0%)、5 位「教師・教員」(11.0%)となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、男子中学生では「公務員」が 2024 年の 2 位から順位を上げ、2017 年の調査開始以来初の 1 位となりました。また、「教師・教員」が 2024 年の 10 位圏外(23 位)から 6 位に上昇しました。

女子中学生では「公務員」が 2024 年の 7 位から 2 位に上昇したほか、男子と同様に「教師・教員」が 2024 年 10 位圏外(13 位)→2025 年 5 位となりました。

高校生についてみると、男子高校生では 1 位「公務員」(13.3%)、2 位「IT エンジニア・プログラマー」(11.8%)、3 位「会社員」(10.0%)、4 位「教師・教員」(9.5%)、5 位「YouTuber などの動画投稿者」(8.0%)となりました。

女子高校生では 1 位「公務員」(12.3%)、2 位「教師・教員」(11.8%)、3 位「看護師」(9.5%)、4 位「会社員」(7.5%)、5 位「歌手・俳優・声優などの芸能人」(6.8%)となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、男子高校生では 2024 年に 10 位だった「歌手・俳優・声優などの芸能人」が 6 位に順位を上げました。

女子高校生では「YouTuber などの動画投稿者」が 2024 年 10 位圏外(14 位)→2025 年 9 位、「カウンセラーや臨床心理士」も 2024 年 10 位圏外(11 位)→2025 年 9 位に上昇し、TOP10 入りしました。(p.6-7)

■ POINT 3

⇒「将来、子どもがほしい」中学生の 57%、高校生の 52%、「子どもがほしいと思わない」は女子高校生の 3 人に 1 人

子どもをもつことについて、「将来、子どもがほしい」と「将来、子どもがほしいと思わない」では、中学生、高校生ともに『将来、子どもがほしい(計)』(中学生 56.5%、高校生 51.5%)が多数派でした。

男女・学校別にみると、女子高校生では、『将来、子どもがほしいと思わない(計)』と回答した人の割合が 32.3%となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、『将来、子どもがほしいと思わない(計)』と回答した人の割合は、女子中学生では 2024 年 30.0%→2025 年 22.0%と 8.0 ポイント下降しました。(p.9)

■ POINT 4

⇒中高生の生きがい

男子中学生、男子高校生では 1 位「ゲーム」

女子中学生 1 位「推し活」、女子高校生 1 位「推し活」「音楽」

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、生きがいについて聞きました。

中学生についてみると、「友人との交流」(49.5%)が最も高くなりました。次いで、「音楽」(49.0%)、「睡眠」(43.0%)、「推し活」(41.5%)、「テレビ・動画」(40.0%)でした。

男女別にみると、男子では 1 位は「ゲーム」(50.0%)、2 位は「友人との交流」(43.0%)、3 位は「音楽」(38.0%)となり、半数がゲームを生きがいと感じていることがわかりました。また、女子では 1 位「推し活」(62.0%)、2 位「音楽」(60.0%)、3 位「友人との交流」(56.0%)となりました。

高校生についてみると、「音楽」(45.3%)が最も高く、「推し活」(37.3%)、「友人との交流」(35.8%)、「睡眠」(34.3%)、「ゲーム」(30.4%)と続きました。

男女別にみると、男子では、中学生と同様、1 位は「ゲーム」(39.0%)となりました。以降、2 位「音楽」(37.8%)、3 位「友人との交流」(31.3%)でした。女子では「推し活」「音楽」(いずれも 52.8%)が 1 位となり、3 位は「睡眠」(41.5%)となりました。(p.13)

■ POINT 5

⇒「同性同士が付き合っても違和感はない」男子高校生と女子高校生では 28 ポイント差

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、性の多様性に関する内容を提示し、「はい」「いいえ」のいずれにあてはまるか聞きました。

中学生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《男子がスカート制服を着ていても違和感はない》では 43.0%、《女子がスラックス制服を着ていても違和感はない》では 79.5%、《男子が化粧をしていても違和感はない》では 75.0%、《同性同士が付き合っても違和感はない》では 64.5%となりました。女子のスラックス制服の着用や男子の化粧に対しては、大半が違和感を覚えないことがわかりました。

男女別にみると、「はい」と回答した人の割合は、すべての項目で男子を女子が 20 ポイント以上上回る結果となりました。

高校生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《男子がスカート制服を着ていても違和感はない》では 34.0%、《女子がスラックス制服を着ていても違和感はない》では 77.0%、《男子が化粧をしていても違和感はない》では 73.0%、《同性同士が

NEWS LETTER (調査レポート)

付き合っても違和感はない」では 62.7%となり、高校生でも女子のスラックス制服の着用や男子の化粧については、違和感はないという人が大半となりました。

男女別にみると、「はい」と回答した人の割合は、《同性同士が付き合っても違和感はない》(男子 48.8%、女子 76.8%)では女子のほうが 28.0 ポイント高くなり、男女間で性の多様性に関する意識に差がみられました。(p.14)

■ POINT 6

⇒中高生が“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人 男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」

“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人を聞いたところ、1 位「大谷翔平さん」、2 位「HIKAKIN さん」、3 位「大森元貴さん」、4 位「明石家さんまさん」「橋本環奈さん」となりました。

男女別にみると、男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」となり、男子の回答では 2 位「HIKAKIN さん」、3 位「出川哲朗さん」、女子の回答では 2 位「橋本環奈さん」、3 位「大森元貴さん」が続きました。

選んだ理由を聞いたところ、男子・女子ともに 1 位の大谷翔平さんについては「世界で活躍する人の気持ちの作り方を学びたい」(男子高校生)、「努力でプロ野球選手になっているから」(男子中学生)、「礼儀正しいから」(女子高校生)や「高校生の時に立てた目標を、大人になった今、着々と成功させていっているから」(女子中学生)といった回答がみられました。(p.24)

◆アナリストのコメント◆

ソニーフィナンシャル
グループ株式会社
金融市場調査部
シニアアナリスト
石川 久美子



「中高生が思い描く将来についての意識調査」今回で 6 回目となります。今回の調査でまず目につくのが、この世代の中で将来を不安視する気持ちが強まり、より安定を求める様子でした。

「自分の将来」について「10 年後は明るい」と回答した割合は中学生・高校生ともに半数を超えるものの、2024 年調査時に比べて減少(図 1)し、「不安」の回答割合が上昇しました。日本と世界の 10 年後に対する不安の声も 2024 年調査時よりも強まっています(図 2)。中学生は約 7 割、高校生については 8 割近くが 10 年後の日本の見通しに不安を抱いているという結果です。背景には、ここ数年で強く意識されるようになったインフレや、米国発の関税政策によって世界的に経済の先行きに不透明感が強まっている中で、日本経済にも逆風が吹いていることなどが影響している可能性があります。こうした状況を反映してか、今回の調査において、「将来なりたい職業」については安定した職業と見なされやすい「公務員」の回答割合が上昇。一方で、「YouTuber などの動画投稿者」や「歌手・俳優・声優などの芸能人」、「ゲーム実況者」など、2024 年調査時には上位を占めていた職業の回答割合は全体として下降しています(図 4・5)。特に男子中学生においては、2024 年調査時に 23%もの回答割合を占めて圧倒的 1 位だった「YouTuber などの動画投稿者」は今回、14%まで下降し、公務員(16%)が 1 位となりました。そのほか、「会社員」や「教師・教員」の回答割合も全体として 2024 年調査時よりも伸びています。

しかし、これを見て、この世代が安定志向のあまり夢を見なくなったと、考えるのは時期尚早です。たしかに、男子中学生以外については「好きなことを仕事にする」という回答割合が 2024 年調査時に比べて下降し、高校生については「安定した毎日を送る」が男女ともに 1 位につけています。しかし全体を俯瞰すると、職業について“突出して高い回答割合”というものが目立たなくなり、「将来の夢」の“分散化”が進んだ印象です。ちなみに、男子中学生については「プロスポーツ選手」、女子中学生については「動物園や水族館の飼育員」の回答割合が大きく伸びています。また、「生きがいを感じる」ということについては、「友人との交流」を除くと様々な趣味や「推し活」などが挙げられており、楽しみを「職業」と分けて考えている様子が見受けられます。

今回の調査では、Z 世代(1990 年代後半から 2010 年頃生まれ)と α 世代(2010 年以降生まれ)が入り混じる層が対象となりました。ともにデジタルネイティブであり、人種や性別、年齢に捉われない「多様性」を重要視する傾向があると言われています。

それぞれがそれぞれに好きなことを楽しむために、必ずしも“好き”を職業と絡めなくても良いということがすでにわかっているというのは、情報収集に長けたデジタルネイティブの強みとも言えそうです。

NEWS LETTER (調査レポート)

中高生が思い描く将来についての意識調査 2025

このたび、ソニー生命保険株式会社(代表取締役社長 高橋 薫)は、2025 年 6 月 6 日～6 月 16 日の 11 日間、全国の中学生・高校生(中高生)に対し、今回で 6 回目となる「中高生が思い描く将来についての意識調査」をインターネットリサーチで実施し、1,000 名(中学生 200 名、高校生 800 名)の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

【中高生がイメージする将来】

中高生の自身の将来についての意識 「10 年後は明るい」中学生では 61%、高校生では 54%

中学生の日本と世界への意識 「10 年後の日本が不安」は 73%、「10 年後の世界が不安」は 67%

高校生の日本と世界への意識

「10 年後の日本が不安」は 77%、「10 年後の世界が不安」は 72%、2024 年調査からともに 5 ポイント以上上昇

【中高生の将来の夢】

中高生の将来の夢 男子中学生 1 位「好きなことを仕事にする」、女子中学生 1 位「趣味を充実させて生きる」

高校生では男子・女子ともに「安定した毎日を送る」が 1 位

男子中学生が将来になりたい職業 「公務員」が調査開始以来初の 1 位に

女子中学生が将来になりたい職業 1 位「芸能人」2 位「公務員」3 位「会社員」「絵を描く職業」

高校生が将来になりたい職業 男子・女子ともに 1 位は「公務員」

【中高生が希望する将来のライフイベント・ライフスタイル】

希望する将来のライフイベントやライフスタイル 「結婚したい」中学生の 68%、高校生の 60%

「将来、子どもがほしい」中学生の 57%、高校生の 52%、「子どもがほしいと思わない」は女子高校生の 3 人に 1 人

「将来、家庭第一の生活をしたい」中学生の 58%、高校生の 49%

「将来、マイホームをもちたい」中学生の 71%、高校生の 62%

「将来、都会で暮らしたい」中学生の 57%、高校生の 47%

【中高生の生きがい】

中高生の生きがい 男子中学生、男子高校生では 1 位「ゲーム」

女子中学生では 1 位「推し活」、女子高校生では 1 位「推し活」「音楽」

【中高生のジェンダー意識】

「女子がスラックス制服を着いても違和感はない」中学生の 80%

「男子が化粧をしていても違和感はない」中学生の 75%、高校生の 73%

「同性同士が付き合っても違和感はない」男子高校生と女子高校生では 28 ポイント差

NEWS LETTER (調査レポート)

「“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる」高校生では 12%

「ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている」高校生の 5 人に 1 人

【中高生の人間関係】

自分のキャラクターに対する意識 中学生では「陽キャ」が多数派、高校生では「陰キャ」が多数派

「学校の友人の前では自分のキャラを作っている」中学生の 60%、高校生の 53%

カッコいいと思う大人の特徴 1 位 中学生・高校生ともに「マナーがしっかりしている」

「親は自分のことをわかってきていると思う」中学生の 72%、高校生の 68%

「学校の担任の先生は自分のことをわかってきていると思う」女子中学生では半数未満

「親と本音で話せている」中学生の 58%、高校生の 62%

「親に悩みを相談することがある」中学生の 61%、高校生の 59%

「親を“大好き”と思うことがある」中学生の 71%、高校生の 67%

「親を尊敬している」男子中学生では 77%

「親からの期待に押しつぶされそうになることがある」中学生の 45%、高校生の 40%

【先生に対する中高生の評価】

クラス担任への評価(5 段階評価)の平均点

「学校行事に積極的に取り組んでいる」中学生では 3.87、高校生では 3.58

「生徒と積極的にコミュニケーションをとっている」中学生では 3.71、高校生では 3.52

【中高生が選ぶ有名人・アーティスト】

中高生が“将来のことを相談したい”と思う有名人

男子 1 位は「HIKAKIN さん」、女子 1 位は「マツコ・デラックスさん」

中高生が“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人 男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」

中高生が“推したい”と思うアーティスト・アイドル TOP3 「Mrs. GREEN APPLE」「嵐」「Snow Man」

NEWS LETTER (調査レポート)

アンケート調査結果

【中高生がイメージする将来】

◆中高生の自身の将来についての意識「10年後は明るい」中学生では61%、高校生では54%

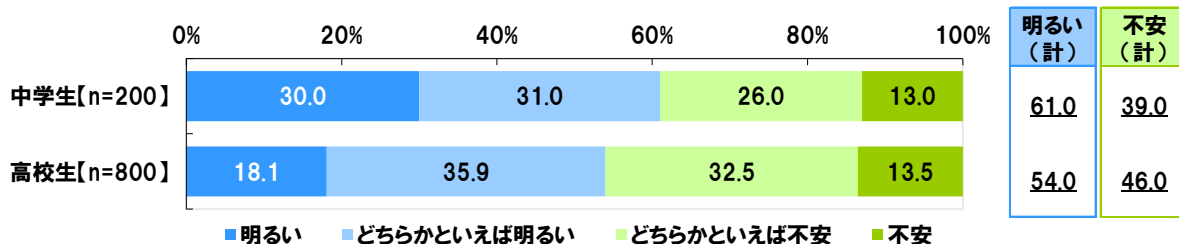
全国の中高生1,000名(中学生200名、高校生800名)に、10年後の自身について、明るい見通しをもっているか、不安を抱えているか聞きました。

中学生についてみると、『明るい(計)』(「明るい」と「どちらかといえば明るい」の合計、以下同様)は61.0%、『不安(計)』(「不安」と「どちらかといえば不安」の合計、以下同様)は39.0%となり、高校生についてみると、『明るい(計)』は54.0%、『不安(計)』は46.0%となりました。

2024年の調査結果と比較すると、『明るい(計)』と回答した人の割合は、中学生では2024年62.5%→2025年61.0%と1.5ポイント下降、高校生では2024年57.1%→2025年54.0%と3.1ポイント下降しました。(図1)

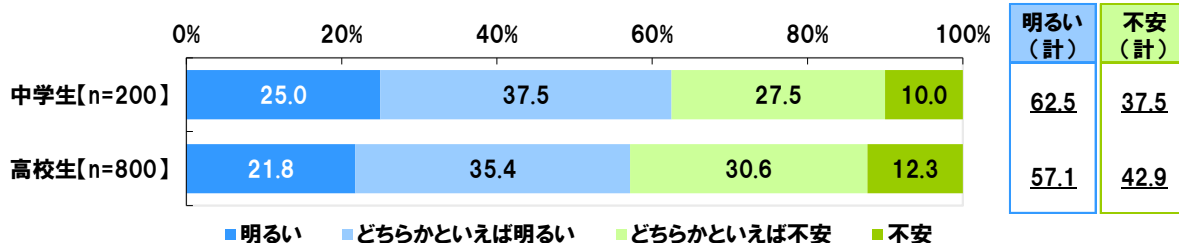
(図1) 経年調査

◆10年後の自身について、明るい見通しをもっているか、不安を抱えているか [単一回答形式]



【2024年調査】

◆10年後の自身について、明るい見通しをもっているか、不安を抱えているか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

◆中学生の日本と世界への意識 「10 年後の日本が不安」は 73%、「10 年後の世界が不安」は 67%

◆高校生の日本と世界への意識

「10 年後の日本が不安」は 77%、「10 年後の世界が不安」は 72%、2024 年調査からともに 5 ポイント以上上昇

続いて、全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、10 年後の日本や世界について、明るい見通しをもっているか、不安を抱いているか聞きました。

中学生についてみると、『不安(計)』は、【10 年後の日本】では 73.0%、【10 年後の世界】では 67.0%となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、『不安(計)』は、【10 年後の日本】(2024 年 67.5%、2025 年 73.0%)と【10 年後の世界】(2024 年 62.5%、2025 年 67.0%)ともに上昇しました。

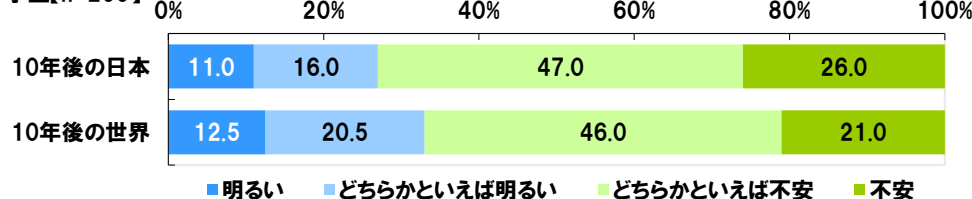
高校生についてみると、『不安(計)』は、【10 年後の日本】では 77.3%、【10 年後の世界】では 71.9%となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、『不安(計)』は、【10 年後の日本】(2024 年 71.4%、2025 年 77.3%)と【10 年後の世界】(2024 年 64.4%、2025 年 71.9%)ともに 5 ポイント以上上昇しました。日本国内では、米の価格高騰をはじめとした物価上昇に加え、地震や豪雨といった自然災害など、国際社会では、ロシア・ウクライナ間の戦争、イラン・イスラエル間の対立の激化などを受けて、未来を危惧している中高生は多いのではないのでしょうか。(図 2)

(図 2) 経年調査

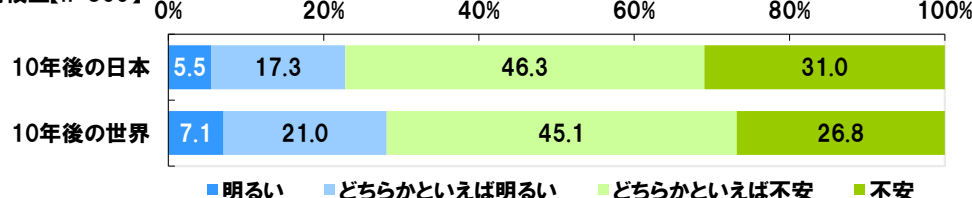
◆10年後の日本や世界について、明るい見通しをもっているか、不安を抱いているか [各単一回答形式]

中学生[n=200]



明るい (計)	不安 (計)
27.0	73.0
33.0	67.0

高校生[n=800]

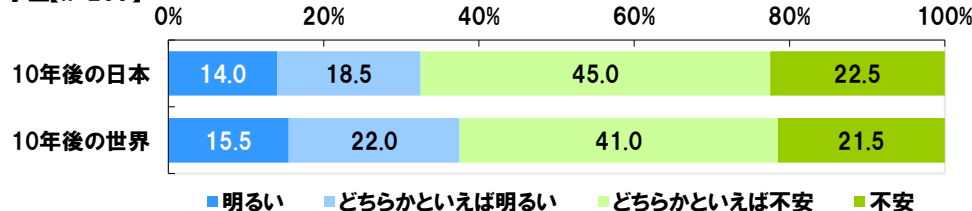


明るい (計)	不安 (計)
22.8	77.3
28.1	71.9

【2024年調査】

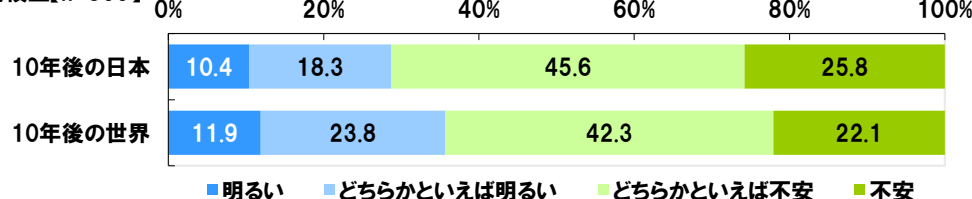
◆10年後の日本や世界について、明るい見通しをもっているか、不安を抱いているか [各単一回答形式]

中学生[n=200]



明るい (計)	不安 (計)
32.5	67.5
37.5	62.5

高校生[n=800]



明るい (計)	不安 (計)
28.6	71.4
35.6	64.4

NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生の将来の夢】

◆中高生の将来の夢 男子中学生 1 位「好きなことを仕事にする」、女子中学生 1 位「趣味を充実させて生きる」
高校生では男子・女子ともに「安定した毎日を送る」が 1 位

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、将来の夢について聞きました。

中学生についてみると、「好きなことを仕事にする」(53.5%)が最も高くなり、次いで、「安定した毎日を送る」(50.5%)、「趣味を充実させて生きる」(50.0%)、「素敵な相手と恋愛・結婚する」(40.0%)、「あたたかい家庭を築く」(38.5%)となりました。

男女別にみると、男子の 1 位は「好きなことを仕事にする」(52.0%)、女子の 1 位は「趣味を充実させて生きる」(60.0%)となりました。また、女子の 1 位となった「趣味を充実させて生きる」(男子 40.0%、女子 60.0%)では、男子と比べて女子のほうが 20.0 ポイント高くなりました。

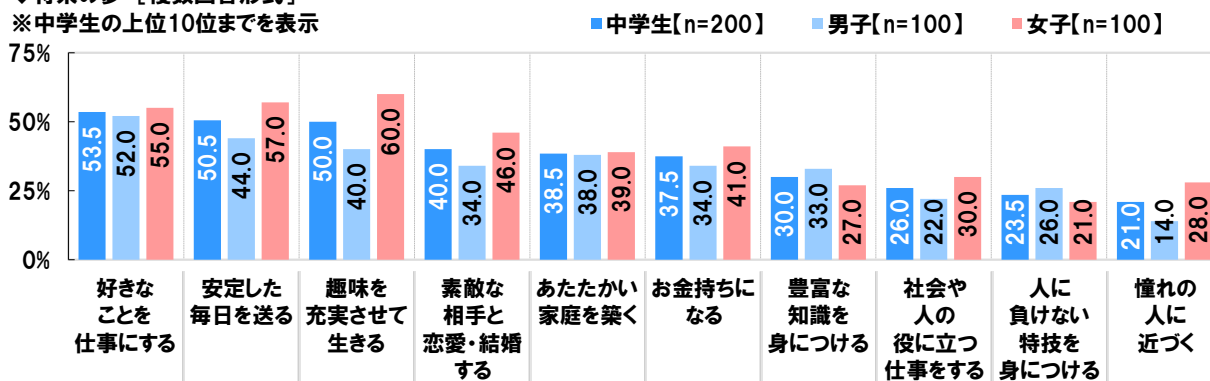
高校生についてみると、「安定した毎日を送る」(49.9%)が最も高くなり、次いで、「好きなことを仕事にする」「趣味を充実させて生きる」(いずれも 43.5%)、「素敵な相手と恋愛・結婚する」(34.1%)、「お金持ちになる」(31.4%)となりました。

男女別にみると、男子・女子ともに 1 位は「安定した毎日を送る」(男子 45.3%、女子 54.5%)でした。次いで、男子では 2 位「趣味を充実させて生きる」(39.5%)、3 位「好きなことを仕事にする」(37.8%)、女子では 2 位「好きなことを仕事にする」(49.3%)、3 位「趣味を充実させて生きる」(47.5%)でした。(図 3)

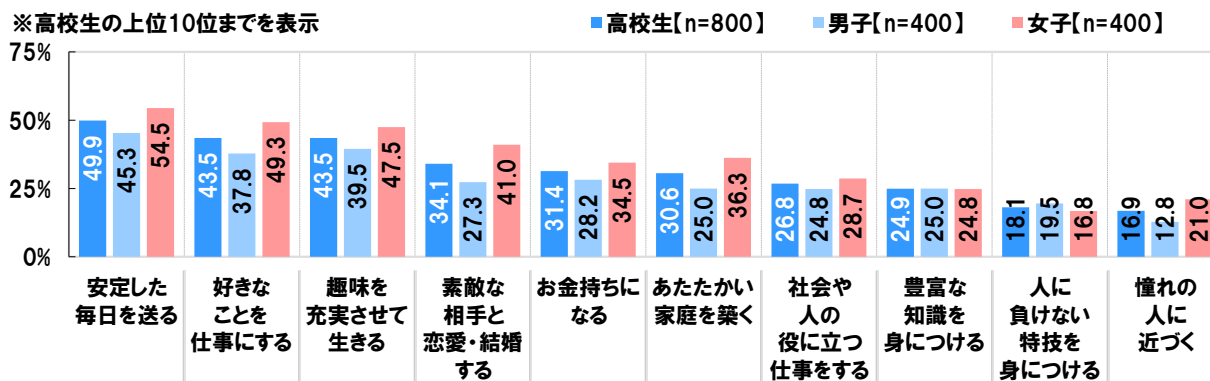
(図 3)

◆将来の夢 [複数回答形式]

※中学生の上位10位までを表示



※高校生の上位10位までを表示



NEWS LETTER (調査レポート)

◆男子中学生が将来なりたい職業「公務員」が調査開始以来初の 1 位に

◆女子中学生が将来なりたい職業 1 位「芸能人」2 位「公務員」3 位「会社員」「絵を描く職業」

将来なりたい職業を聞きました。

中学生についてみると、男子中学生では 1 位「公務員」(16.0%)、2 位「プロスポーツ選手」(15.0%)、3 位「YouTuber などの動画投稿者」(14.0%)、4 位「会社員」(11.0%)、5 位「IT エンジニア・プログラマー」(10.0%)となりました。

女子中学生では 1 位「歌手・俳優・声優などの芸能人」(15.0%)、2 位「公務員」(14.0%)、3 位「会社員」「絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)」(いずれも 13.0%)、5 位「教師・教員」(11.0%)となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、男子中学生では「公務員」が 2024 年の 2 位から順位を上げ、2017 年の調査開始以来初の 1 位となりました。また、「教師・教員」が 2024 年の 10 位圏外(23 位)から 6 位に上昇しました。

女子中学生では「公務員」が 2024 年の 7 位から 2 位に上昇したほか、男子と同様に「教師・教員」が 2024 年 10 位圏外(13 位)→2025 年 5 位となりました。(図 4)

(図 4) 経年調査

◆将来なりたい職業 [複数回答形式(3つまで)] ※中学生の回答結果を表示

	男子中学生(n=100)	%
1位	公務員	16.0
2位	プロスポーツ選手	15.0
3位	YouTuberなどの動画投稿者	14.0
4位	会社員	11.0
5位	ITエンジニア・プログラマー	10.0
6位	教師・教員	9.0
7位	学者・研究者	7.0
	医師	6.0
8位	ゲーム実況者	6.0
	社長などの会社経営者・起業家	6.0

	女子中学生(n=100)	%
1位	歌手・俳優・声優などの芸能人	15.0
2位	公務員	14.0
3位	会社員	13.0
	絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)	13.0
5位	教師・教員	11.0
6位	保育士・幼稚園教諭	10.0
	動物園や水族館の飼育員	10.0
8位	美容師	9.0
	YouTuberなどの動画投稿者	8.0
9位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	8.0
	医師	8.0

【2024年調査】

	男子中学生(n=100)	%
1位	YouTuberなどの動画投稿者	23.0
2位	公務員	13.0
3位	会社員	11.0
4位	ITエンジニア・プログラマー	10.0
	ゲームクリエイター	9.0
5位	社長などの会社経営者・起業家	9.0
	ゲーム実況者	9.0
	プロスポーツ選手	9.0
9位	プロスポーツプレイヤー	8.0
10位	歌手・俳優・声優などの芸能人	7.0
	ロボット開発技術者	7.0

	女子中学生(n=100)	%
1位	歌手・俳優・声優などの芸能人	18.0
2位	絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)	13.0
3位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	11.0
	医師	11.0
5位	保育士・幼稚園教諭	10.0
6位	看護師	9.0
7位	公務員	7.0
	美容師	7.0
	会社員	6.0
9位	YouTuberなどの動画投稿者	6.0
	動物園や水族館の飼育員	6.0
	文章を書く職業(作家・ライターなど)	6.0

NEWS LETTER (調査レポート)

◆高校生が将来なりたい職業 男子・女子ともに 1 位は「公務員」

高校生についてみると、男子高校生では 1 位「公務員」(13.3%)、2 位「IT エンジニア・プログラマー」(11.8%)、3 位「会社員」(10.0%)、4 位「教師・教員」(9.5%)、5 位「YouTuber などの動画投稿者」(8.0%)となりました。

女子高校生では 1 位「公務員」(12.3%)、2 位「教師・教員」(11.8%)、3 位「看護師」(9.5%)、4 位「会社員」(7.5%)、5 位「歌手・俳優・声優などの芸能人」(6.8%)となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、男子高校生では 2024 年に 10 位だった「歌手・俳優・声優などの芸能人」が 6 位に順位を上げました。

女子高校生では「YouTuber などの動画投稿者」が 2024 年 10 位圏外(14 位)→2025 年 9 位、「カウンセラーや臨床心理士」も 2024 年 10 位圏外(11 位)→2025 年 9 位に上昇し、TOP10 入りしました。(図 5)

(図 5) 経年調査

◆将来なりたい職業 [複数回答形式(3つまで)] ※高校生の回答結果を表示

男子高校生(n=400)			女子高校生(n=400)		
		%			%
1位	公務員	13.3	1位	公務員	12.3
2位	ITエンジニア・プログラマー	11.8	2位	教師・教員	11.8
3位	会社員	10.0	3位	看護師	9.5
4位	教師・教員	9.5	4位	会社員	7.5
5位	YouTuberなどの動画投稿者	8.0	5位	歌手・俳優・声優などの芸能人	6.8
6位	歌手・俳優・声優などの芸能人	7.2	6位	保育士・幼稚園教諭	6.5
7位	運転手・パイロット	7.0		美容師	6.5
8位	ゲームクリエイター	5.5	8位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	6.0
9位	ものづくりエンジニア(自動車の設計や開発など)	5.3	9位	YouTuberなどの動画投稿者	5.3
10位	大工など建築関係	4.8		カウンセラーや臨床心理士	5.3
	ゲーム実況者	4.8			

【2024年調査】

男子高校生(n=400)			女子高校生(n=400)		
		%			%
1位	ITエンジニア・プログラマー	12.5	1位	保育士・幼稚園教諭	12.0
2位	公務員	12.3	2位	公務員	11.5
3位	会社員	11.3	3位	看護師	9.8
4位	YouTuberなどの動画投稿者	10.5	4位	会社員	8.3
5位	ゲームクリエイター	8.5		歌手・俳優・声優などの芸能人	8.3
6位	運転手・パイロット	7.2	6位	教師・教員	8.0
7位	教師・教員	7.0	7位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	7.8
8位	ものづくりエンジニア(自動車の設計や開発など)	6.8	8位	絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)	6.8
9位	ゲーム実況者	6.5		ショップ店員	6.8
10位	歌手・俳優・声優などの芸能人	6.3	10位	美容師	6.5

NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生が希望する将来のライフイベント・ライフスタイル】

◆希望する将来のライフイベントやライフスタイル「結婚したい」中学生の 68%、高校生の 60%

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、将来のライフイベントやライフスタイルについて 2 つの例を提示し、自身の気持ちや考えがそれぞれどちらにあてはまるか聞きました。

結婚について、「将来、結婚したい」と「ずっと独身でいたい」のどちらにあてはまるかでは、中学生、高校生ともに『将来、結婚したい(計)』(中学生 68.0%、高校生 60.3%)が多数派でした。

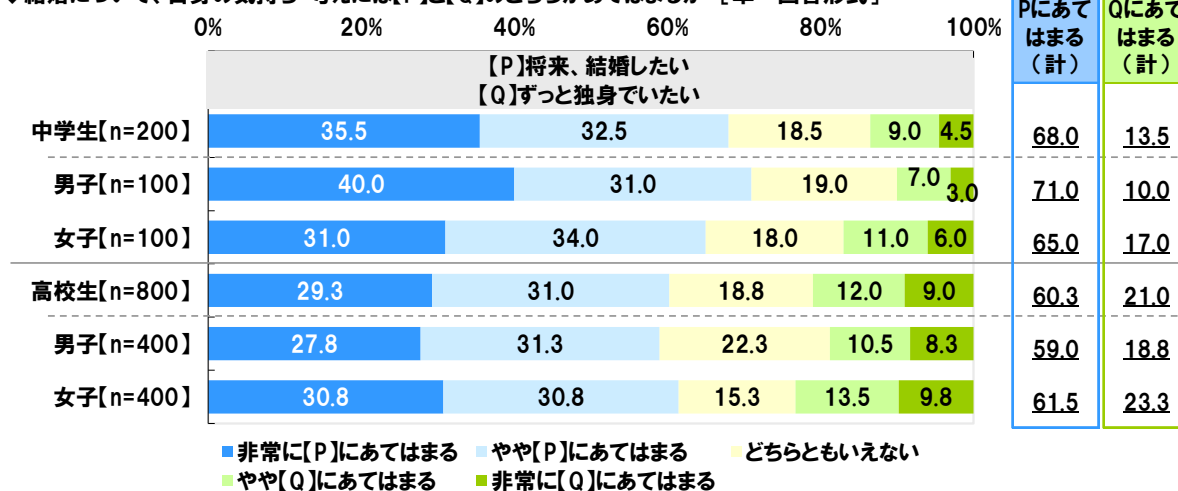
男女・学校別にみると、中学生、高校生ともに、『ずっと独身でいたい(計)』と回答した人の割合は、男子より女子のほうが高く、特に、中学生では男子 10.0%、女子 17.0%と、7.0 ポイントの差がみられました。

2024 年の調査結果と比較すると、『将来、結婚したい(計)』と回答した人の割合は、中学生(2024 年 61.5%、2025 年 68.0%)では 6.5 ポイント上昇した一方、高校生(2024 年 65.3%、2025 年 60.3%)では 5.0 ポイント下降しました。

(図 6)

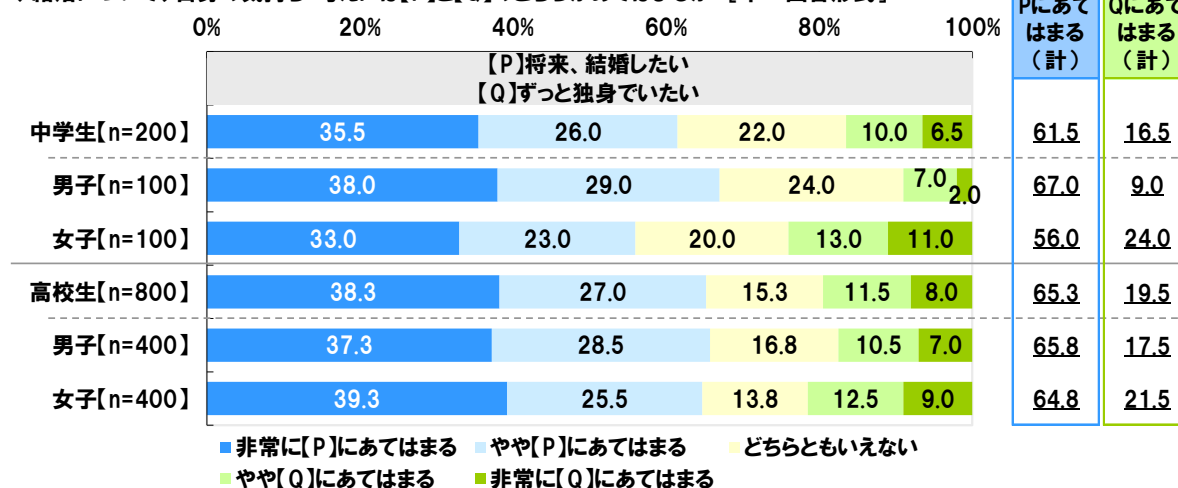
(図 6) 経年調査

◆結婚について、自身の気持ち・考えには[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



【2024年調査】

◆結婚について、自身の気持ち・考えには[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「将来、子どもがほしい」中学生の 57%、高校生の 52%、「子どもがほしいと思わない」は女子高校生の 3 人に 1 人

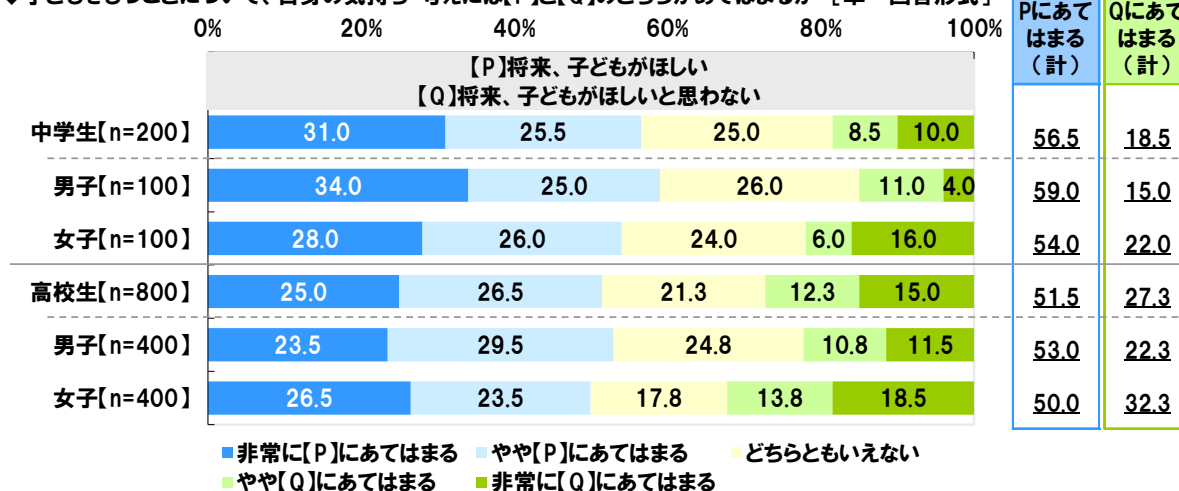
子どもをもつことについて、「将来、子どもがほしい」と「将来、子どもがほしいと思わない」では、中学生、高校生ともに『将来、子どもがほしい(計)』(中学生 56.5%、高校生 51.5%)が多数派でした。

男女・学校別にみると、女子高校生では、『将来、子どもがほしいと思わない(計)』と回答した人の割合が 32.3%となりました。

2024 年の調査結果と比較すると、『将来、子どもがほしいと思わない(計)』と回答した人の割合は、女子中学生では 2024 年 30.0%→2025 年 22.0%と 8.0 ポイント下降しました。(図 7)

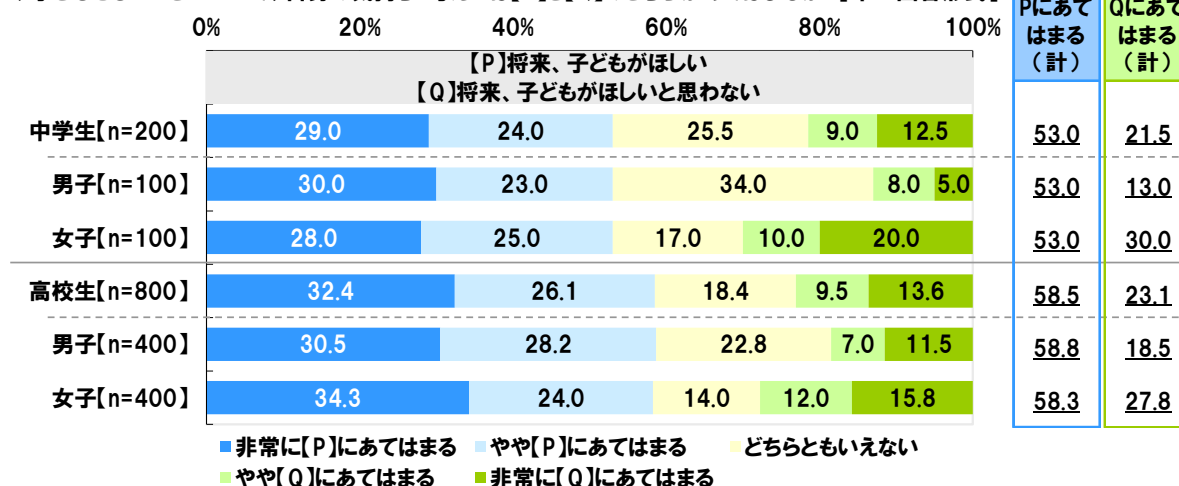
(図 7) 経年調査

◆子どもをもつことについて、自身の気持ち・考えには[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



【2024年調査】

◆子どもをもつことについて、自身の気持ち・考えには[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「将来、家庭第一の生活をしたい」中学生の 58%、高校生の 49%

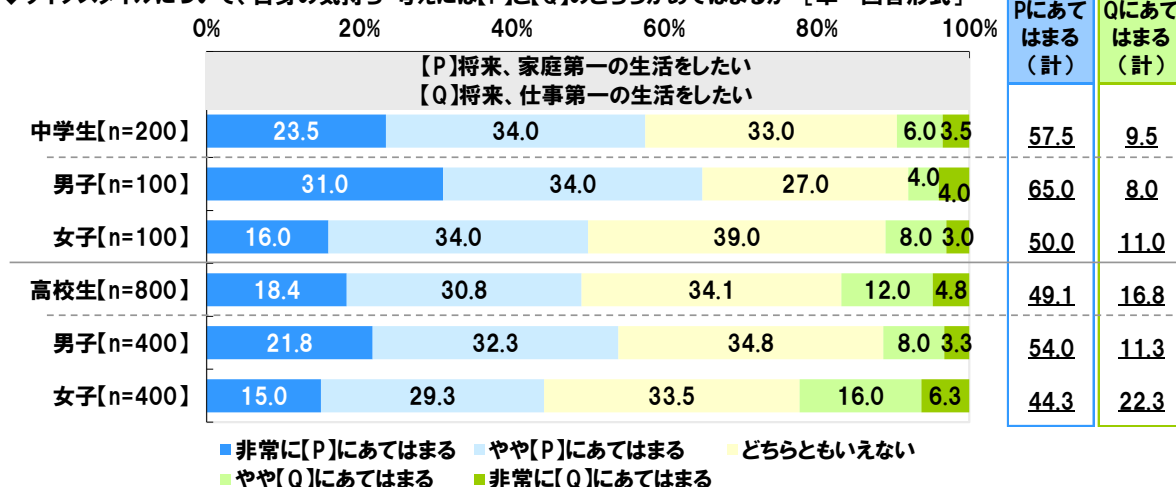
ライフスタイルについて、「将来、家庭第一の生活をしたい」と「将来、仕事第一の生活をしたい」では、中学生、高校生ともに『将来、家庭第一の生活をしたい(計)』(中学生 57.5%、高校生 49.1%)が多数派でした。

男女・学校別にみると、『将来、家庭第一の生活をしたい(計)』と回答した人の割合は、男子中学生では 65.0%と、6割を超えました。

2024 年の調査結果と比較すると、『将来、仕事第一の生活をしたい(計)』と回答した人の割合は、女子高校生では 2024 年 13.3%→2025 年 22.3%と 9.0 ポイント上昇しました。(図 8)

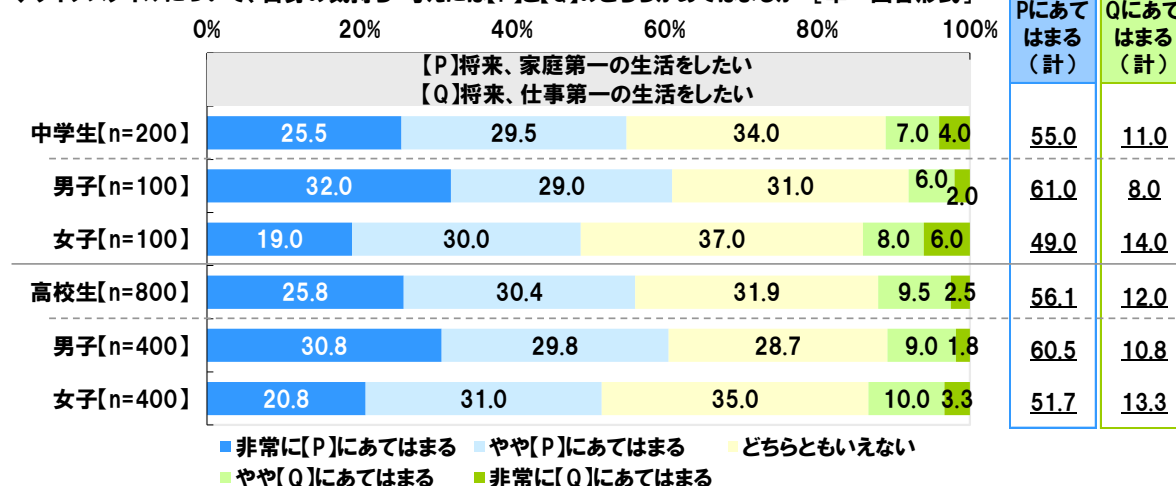
(図 8) 経年調査

◆ライフスタイルについて、自身の気持ち・考えには【P】と【Q】のどちらが当てはまるか [単一回答形式]



【2024年調査】

◆ライフスタイルについて、自身の気持ち・考えには【P】と【Q】のどちらが当てはまるか [単一回答形式]



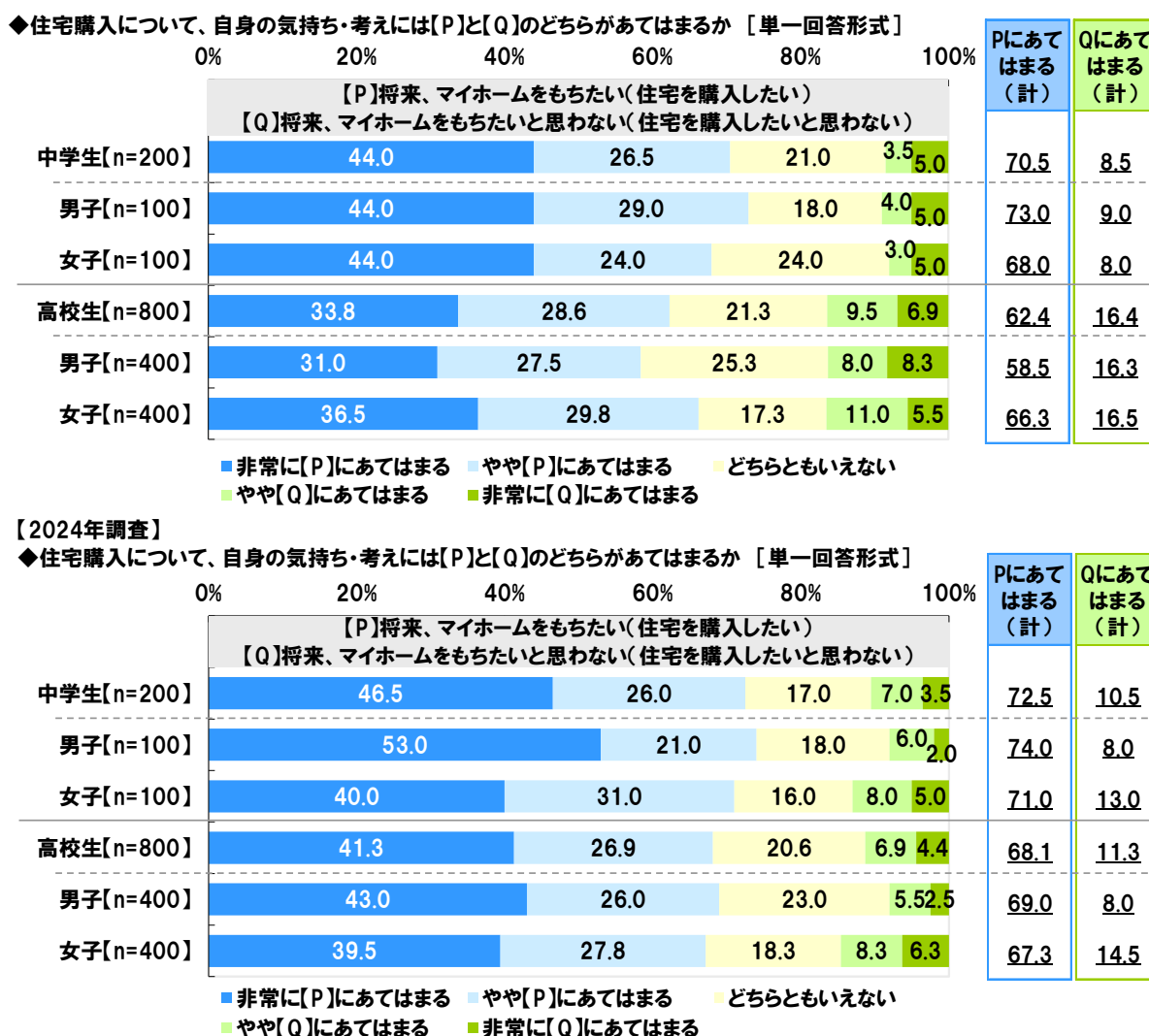
NEWS LETTER (調査レポート)

◆「将来、マイホームをもちたい」中学生の 71%、高校生の 62%

住宅購入について、「将来、マイホームをもちたい(住宅を購入したい)」と「将来、マイホームをもちたいと思わない(住宅を購入したいと思わない)」では、中学生、高校生ともに『将来、マイホームをもちたい(住宅を購入したい)(計)』(中学生 70.5%、高校生 62.4%)が多数派でした。

2024 年調査と比較すると、男子高校生では『将来、マイホームをもちたい(住宅を購入したい)(計)』が 2024 年 69.0%→2025 年 58.5%と、10.5 ポイント下降しました。(図 9)

(図 9) 経年調査



NEWS LETTER (調査レポート)

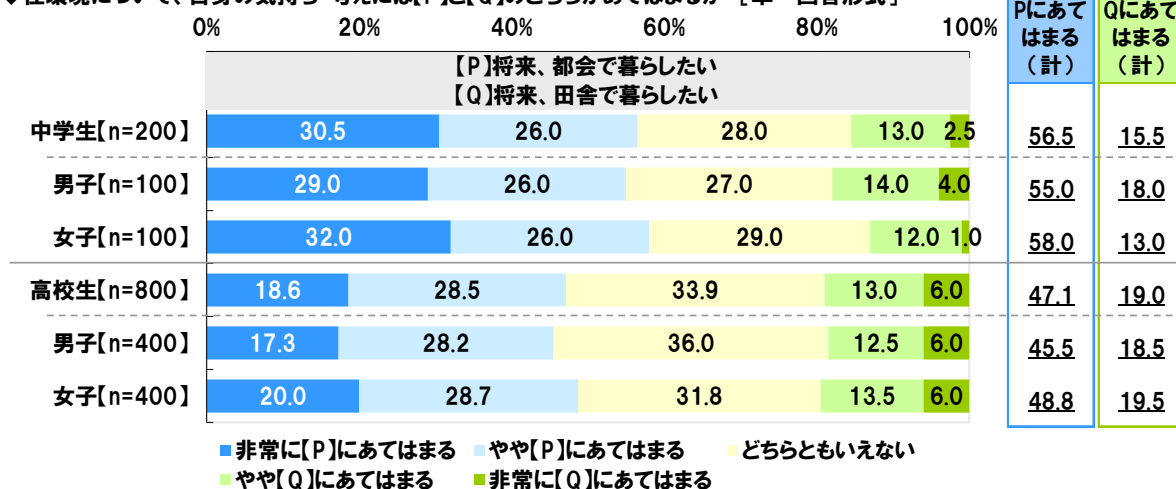
◆「将来、都会で暮らしたい」中学生の 57%、高校生の 47%

住環境について、「将来、都会で暮らしたい」と「将来、田舎で暮らしたい」では、中学生、高校生ともに『将来、都会で暮らしたい(計)』(中学生 56.5%、高校生 47.1%)が多数派でした。

2024 年の調査結果と比較すると、『将来、都会で暮らしたい(計)』と回答した人の割合は、男子中学生では 2024 年 44.0%→2025 年 55.0%と 11.0 ポイント上昇しました。(図 10)

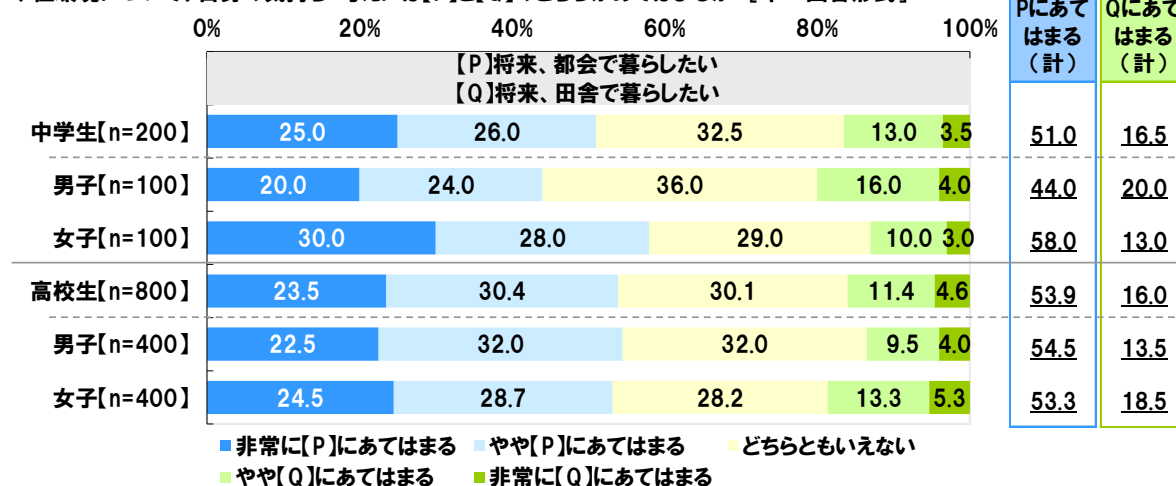
(図 10) **経年調査**

◆住環境について、自身の気持ち・考えには【P】と【Q】のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



【2024年調査】

◆住環境について、自身の気持ち・考えには【P】と【Q】のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生の生きがい】

◆中高生の生きがい 男子中学生、男子高校生では 1 位「ゲーム」

女子中学生では 1 位「推し活」、女子高校生では 1 位「推し活」「音楽」

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、生きがいについて聞きました。

中学生についてみると、「友人との交流」(49.5%)が最も高くなりました。次いで、「音楽」(49.0%)、「睡眠」(43.0%)、「推し活」(41.5%)、「テレビ・動画」(40.0%)でした。

男女別にみると、男子では 1 位は「ゲーム」(50.0%)、2 位は「友人との交流」(43.0%)、3 位は「音楽」(38.0%)となり、半数がゲームを生きがいと感じていることがわかりました。また、女子では 1 位「推し活」(62.0%)、2 位「音楽」(60.0%)、3 位「友人との交流」(56.0%)となりました。

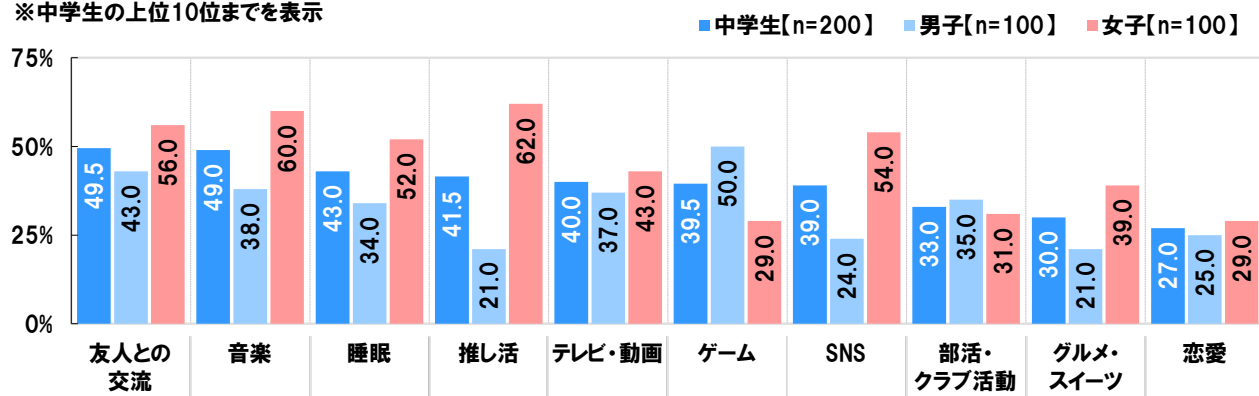
高校生についてみると、「音楽」(45.3%)が最も高く、「推し活」(37.3%)、「友人との交流」(35.8%)、「睡眠」(34.3%)、「ゲーム」(30.4%)と続きました。

男女別にみると、男子では、中学生と同様、1 位は「ゲーム」(39.0%)となりました。以降、2 位「音楽」(37.8%)、3 位「友人との交流」(31.3%)でした。女子では「推し活」「音楽」(いずれも 52.8%)が 1 位となり、3 位は「睡眠」(41.5%)となりました。(図 11)

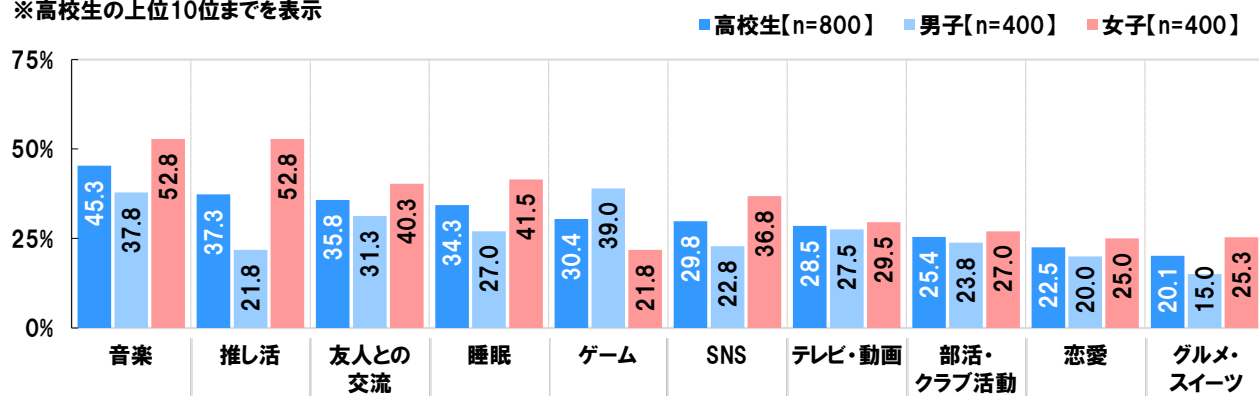
(図 11)

◆生きがいを感じる事 [複数回答形式]

※中学生の上位10位までを表示



※高校生の上位10位までを表示



NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生のジェンダー意識】

◆「女子がスラックス制服を着ていても違和感はない」中学生の 80%

◆「男子が化粧をしていても違和感はない」中学生の 75%、高校生の 73%

◆「同性同士が付き合っても違和感はない」男子高校生と女子高校生では 28 ポイント差

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、性の多様性に関する内容を提示し、「はい」「いいえ」のいずれにあてはまるか聞きました。

中学生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《男子がスカート制服を着ていても違和感はない》では 43.0%、《女子がスラックス制服を着ていても違和感はない》では 79.5%、《男子が化粧をしていても違和感はない》では 75.0%、《同性同士が付き合っても違和感はない》では 64.5%となりました。女子のスラックス制服の着用や男子の化粧に対しては、大半が違和感を覚えないことがわかりました。

男女別にみると、「はい」と回答した人の割合は、すべての項目で男子を女子が 20 ポイント以上上回る結果となりました。

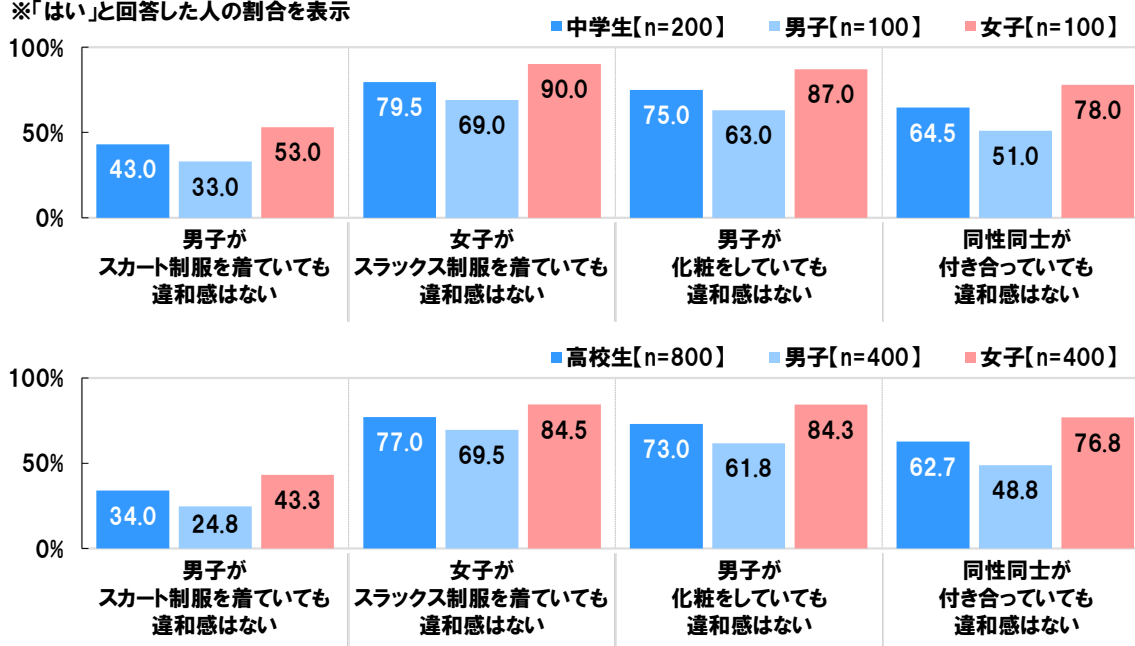
高校生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《男子がスカート制服を着ていても違和感はない》では 34.0%、《女子がスラックス制服を着ていても違和感はない》では 77.0%、《男子が化粧をしていても違和感はない》では 73.0%、《同性同士が付き合っても違和感はない》では 62.7%となり、高校生でも女子のスラックス制服の着用や男子の化粧については、違和感はないという人が大半となりました。

男女別にみると、「はい」と回答した人の割合は、《同性同士が付き合っても違和感はない》(男子 48.8%、女子 76.8%)では女子のほうが 28.0 ポイント高くなり、男女間で性の多様性に関する意識に差がみられました。(図 12)

(図 12)

◆性の多様性に関する意識 [各単一回答形式]

※「はい」と回答した人の割合を表示



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「からだの性」と「こころの性」が異なることに悩んでいる」高校生では 12%

◆「ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている」高校生の 5 人に 1 人

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、性同一性やジェンダーギャップに関する内容を提示し、「はい」「いいえ」のいずれにあてはまるか聞きました。

中学生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる》では 9.0%、《“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる友人がいる》では 10.0%、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている》では 16.0%、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている友人がいる》では 9.5%となりました。

男女別にみると、《“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる》(男子 12.0%、女子 6.0%)では女子と比べて男子のほうが 6.0 ポイント高くなり、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている》(男子 11.0%、女子 21.0%)では男子と比べて女子のほうが 10.0 ポイント高くなりました。

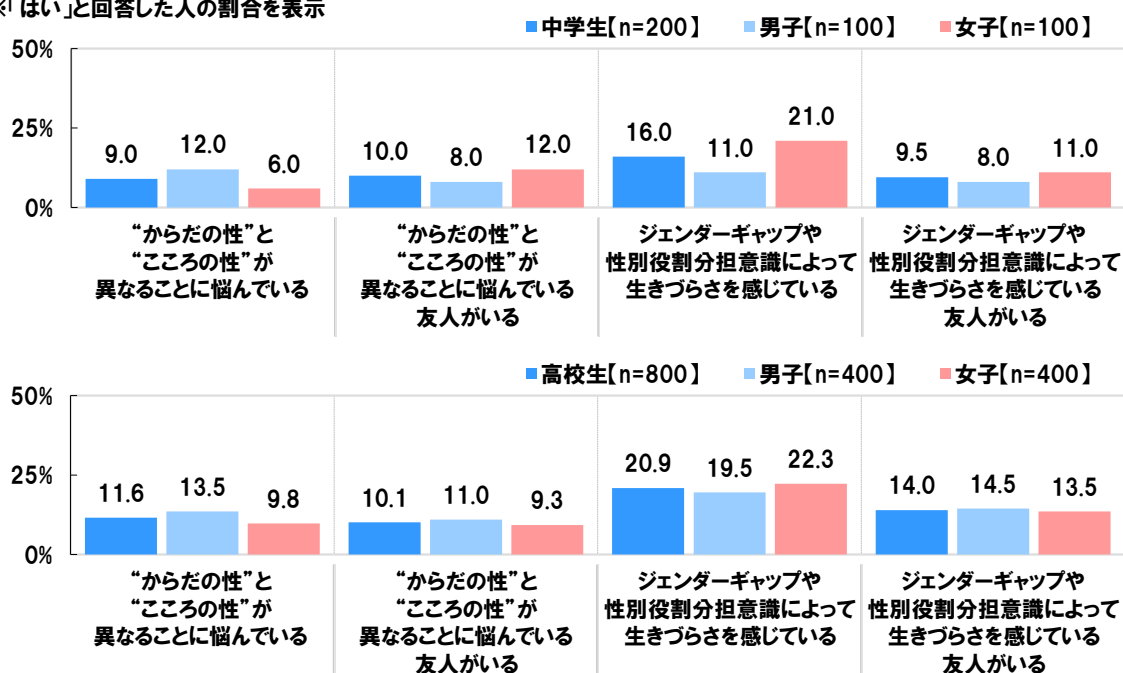
高校生についてみると、「はい」と回答した人の割合は、《“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる》では 11.6%、《“からだの性”と“こころの性”が異なることに悩んでいる友人がいる》では 10.1%、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている》では 20.9%、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている友人がいる》では 14.0%でした。

男女・学校別にみると、「はい」と回答した人の割合は、《ジェンダーギャップや性別役割分担意識によって生きづらさを感じている》(男子中学生 11.0%、男子高校生 19.5%)では、男子中学生を男子高校生が 8.5 ポイント上回りました。男子では、年齢を重ねるにつれ、ジェンダーギャップによって悩まされる場面に直面することが増えていくのではないのでしょうか。(図 13)

(図 13)

◆性同一性やジェンダーギャップに関する状況 [各単一回答形式]

※「はい」と回答した人の割合を表示



NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生の人間関係】

◆自分のキャラクターに対する意識 中学生では「陽キャ」が多数派、高校生では「陰キャ」が多数派

◆「学校の友人の前では自分のキャラを作っている」中学生の 60%、高校生の 53%

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、自身のキャラクターについて 2 つの内容を提示し、自身の気持ち・状況がどちらにあてはまるか聞きました。

自分はどちらかという「陽キャだと思う」と「陰キャだと思う」のどちらにあてはまるか聞いたところ、中学生では『陽キャだと思う(計)』(「非常に」と「どちらかといえば」の合計、以下同様)が 52.5%、『陰キャだと思う(計)』が 47.5%となった一方で、高校生では『陽キャだと思う(計)』が 37.6%、『陰キャだと思う(計)』が 62.4%と、自身を陰キャだと認識している人が半数以上となりました。

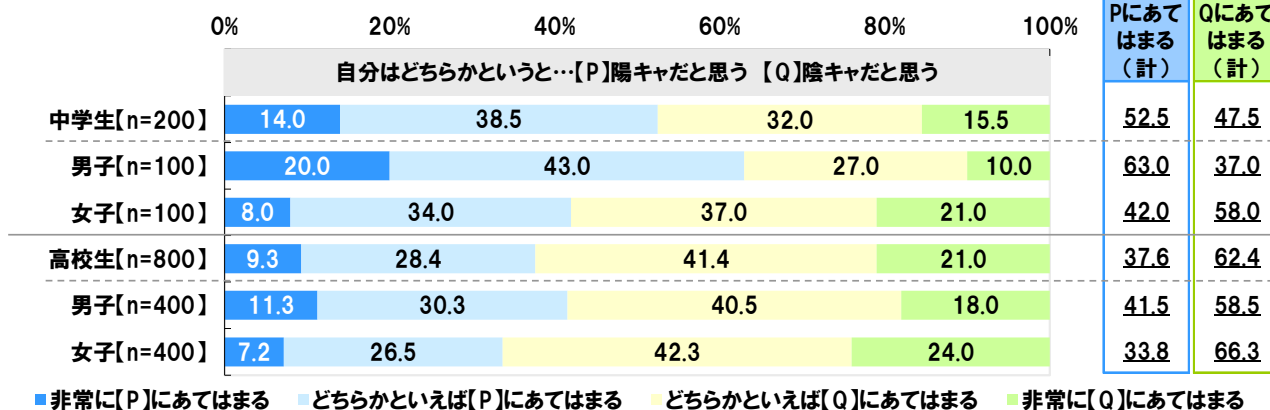
男女・学校別にみると、男子中学生のみ、『陽キャだと思う(計)』(63.0%)が多数派となりました。

学校の友人の前では「自分のキャラを作っている」と「自分のキャラを作っていない」のどちらにあてはまるか聞いたところ、中学生では『自分のキャラを作っている(計)』が 60.0%、『自分のキャラを作っていない(計)』が 40.0%、高校生では『自分のキャラを作っている(計)』が 53.4%、『自分のキャラを作っていない(計)』が 46.6%となりました。

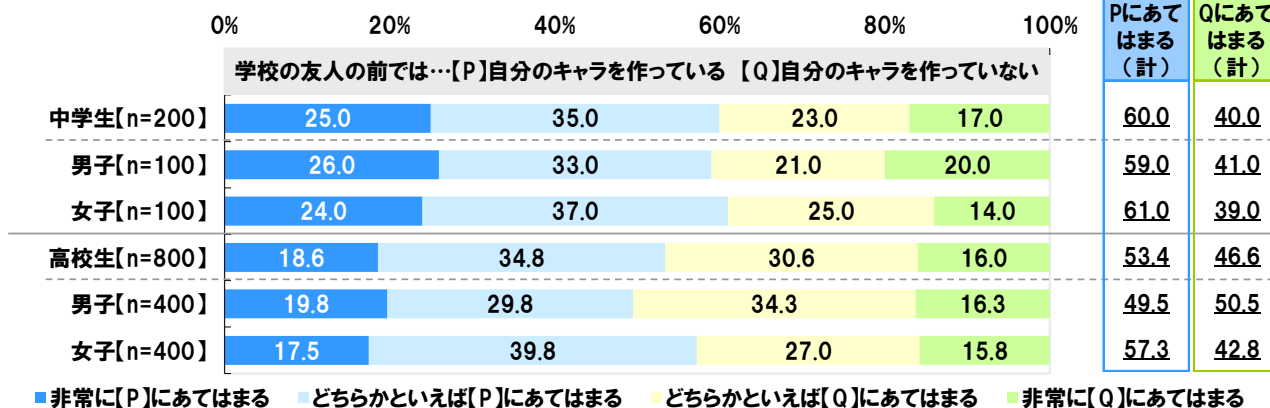
男女・学校別にみると、男子高校生では、『自分のキャラを作っていない(計)』(50.5%)と回答した人の割合が唯一半数以上でした。(図 14)(図 15)

(図 14)(図 15)

◆自身のキャラクターについて、自身の気持ち・状況には[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



◆自身のキャラクターについて、自身の気持ち・状況には[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

◆カッコいいと思う大人の特徴 1 位 中学生・高校生ともに「マナーがしっかりしている」

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、カッコいいと思う大人の特徴を聞きました。

中学生の回答をみると、「マナーがしっかりしている」(51.0%)が最も高くなり、次いで、「聞き上手・質問上手」(44.5%)、「好きなことに打ち込んでいる」(43.0%)、「自分に自信を持っている」(42.5%)、「おしゃべり・トーク上手」(41.0%)となりました。

男女別にみると、「おしゃべり・トーク上手」(男子 31.0%、女子 51.0%)は、男子と比べて女子のほうが 20.0 ポイント高くなりました。

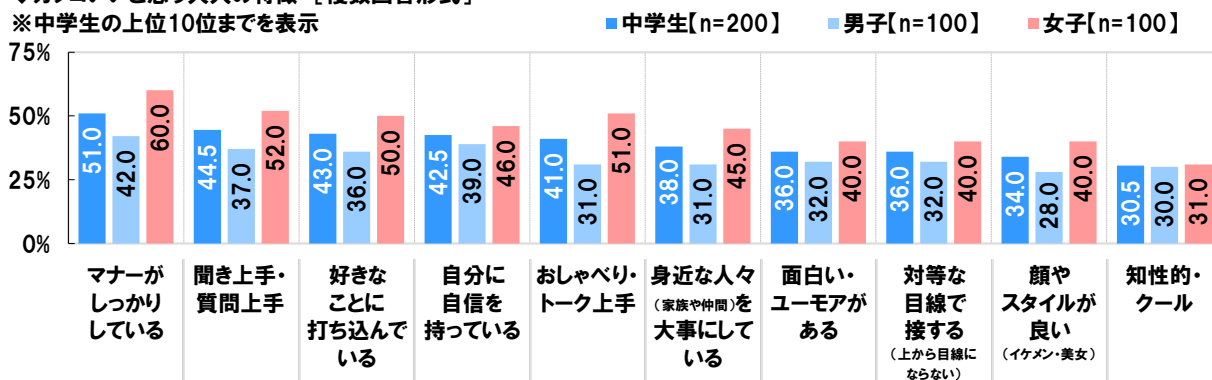
高校生の回答をみると、「マナーがしっかりしている」(45.4%)が最も高くなり、「自分に自信を持っている」(38.0%)が続きました。以降、「好きなことに打ち込んでいる」(37.3%)、「おしゃべり・トーク上手」(32.1%)、「面白い・ユーモアがある」(31.9%)の順となりました。

男女別にみると、「おしゃれ・ファッションセンスがある」(男子 16.5%、女子 36.3%)は、男子と比べて女子のほうが高く、19.8 ポイントの差がみられました。女子高校生ではセンスの良さに憧れる人が多いようです。(図 16)

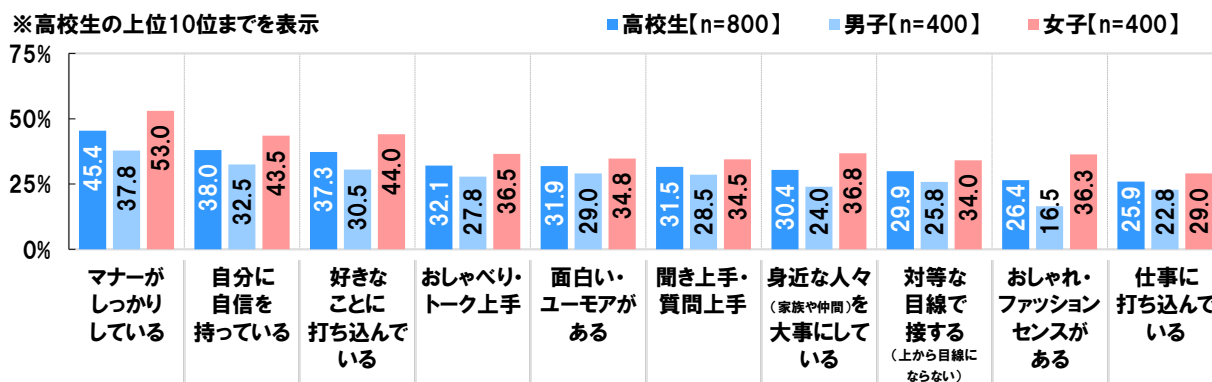
(図 16)

◆カッコいいと思う大人の特徴 [複数回答形式]

※中学生の上位10位までを表示



※高校生の上位10位までを表示



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「親は自分のことをわかってくれていると思う」中学生の 72%、高校生の 68%

◆「学校の担任の先生は自分のことをわかってくれていると思う」女子中学生では半数未満

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、親、先生について 2 つの内容を提示し、自身の気持ち・状況がどちらにあてはまるか聞きました。

親は自分のことを「わかってくれていると思う」と「わかってくれていないと思う」のどちらにあてはまるか聞いたところ、中学生では『わかってくれていると思う(計)』が 72.0%、『わかってくれていないと思う(計)』が 28.0%、高校生では『わかってくれていると思う(計)』が 68.1%、『わかってくれていないと思う(計)』が 31.9%と、いずれもわかってくれていると思う人が多数派となりました。

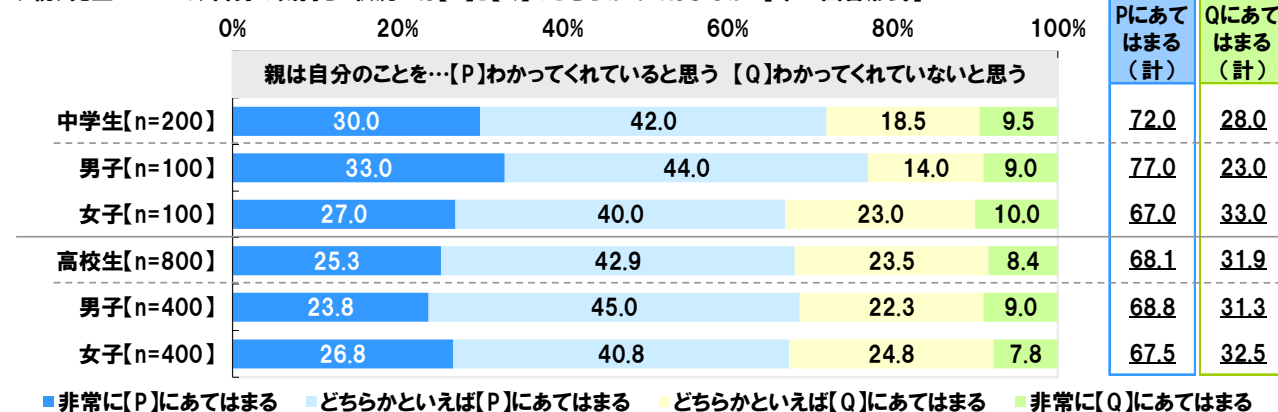
男女・学校別にみると、『わかってくれていると思う(計)』と回答した人の割合は、男子中学生(77.0%)が最も高くなりました。

学校の担任の先生は自分のことを「わかってくれていると思う」と「わかってくれていないと思う」のどちらにあてはまるか聞いたところ、『わかってくれていると思う(計)』は中学生では 55.0%、高校生では 59.4%となりました。

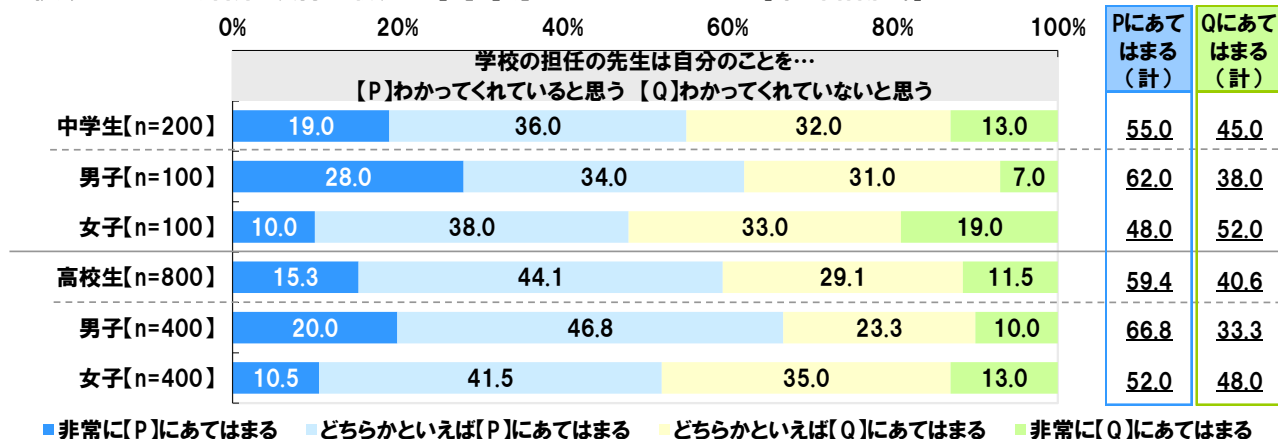
男女・学校別にみると、『わかってくれていると思う(計)』と回答した人の割合は、女子中学生(48.0%)では半数を下回りました。(図 17)(図 18)

(図 17)(図 18)

◆親、先生について、自身の気持ち・状況には[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



◆親、先生について、自身の気持ち・状況には[P]と[Q]のどちらがあてはまるか [単一回答形式]



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「親と本音で話せている」中学生の 58%、高校生の 62%

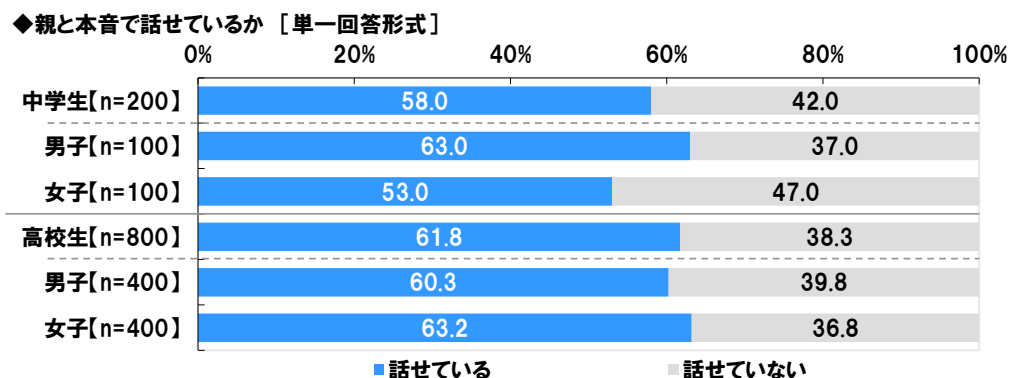
◆「親に悩みを相談することがある」中学生の 61%、高校生の 59%

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、親との関係について聞きました。

まず、親と本音で話せているか聞いたところ、中学生では「話せている」が 58.0%、「話せていない」が 42.0%となりました。高校生では「話せている」が 61.8%、「話せていない」が 38.3%でした。中学生、高校生ともに半数以上が本音で話せる親子関係を築けているようです。

男女・学校別にみると、「話せている」と回答した人の割合は、女子高校生(63.2%)が最も高く、最も低くなった女子中学生(53.0%)との差は 10.2 ポイントでした。(図 19)

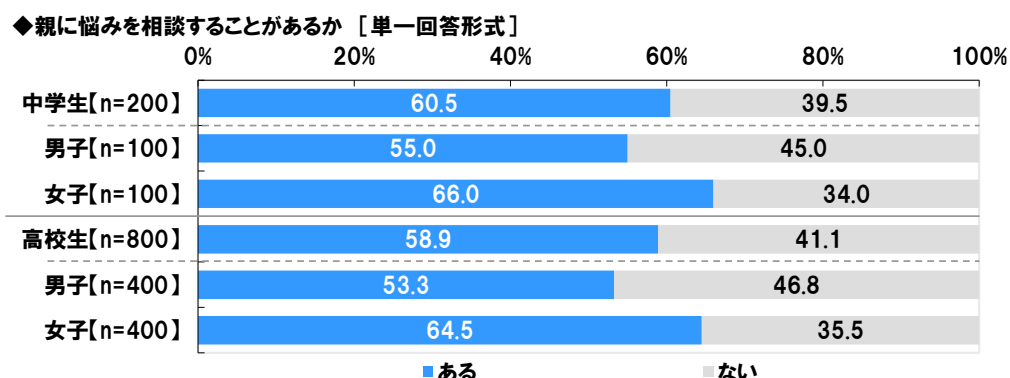
(図 19)



次に、親に悩みを相談することがあるか聞いたところ、中学生では「ある」が 60.5%、「ない」が 39.5%となり、高校生では「ある」が 58.9%、「ない」が 41.1%となりました。

男女・学校別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男子高校生(53.3%)が最も低くなりました。(図 20)

(図 20)



NEWS LETTER (調査レポート)

◆「親を“大好き”と思うことがある」中学生の 71%、高校生の 67%

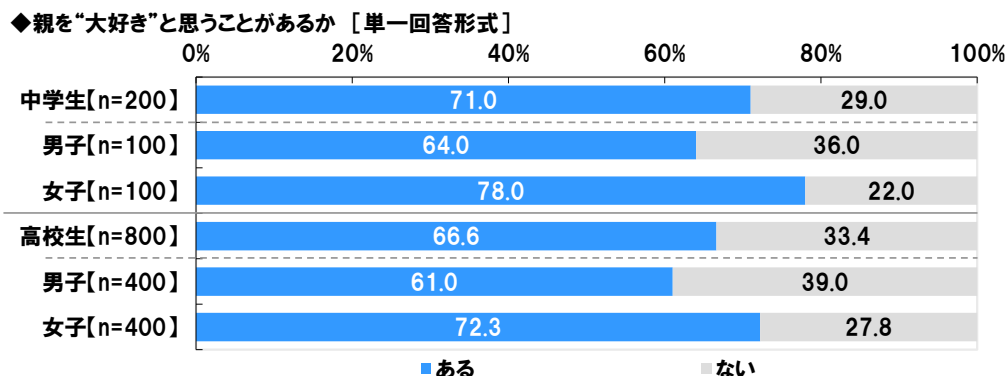
◆「親を尊敬している」男子中学生では 77%

◆「親からの期待に押しつぶされそうになることがある」中学生の 44.5%、高校生の 40.3%

親を“大好き”と思うことがあるか聞いたところ、中学生では「ある」が 71.0%、高校生では「ある」が 66.6%でした。

男女・学校別にみると、男子高校生では 39.0%が「ない」と回答しました。（図 21）

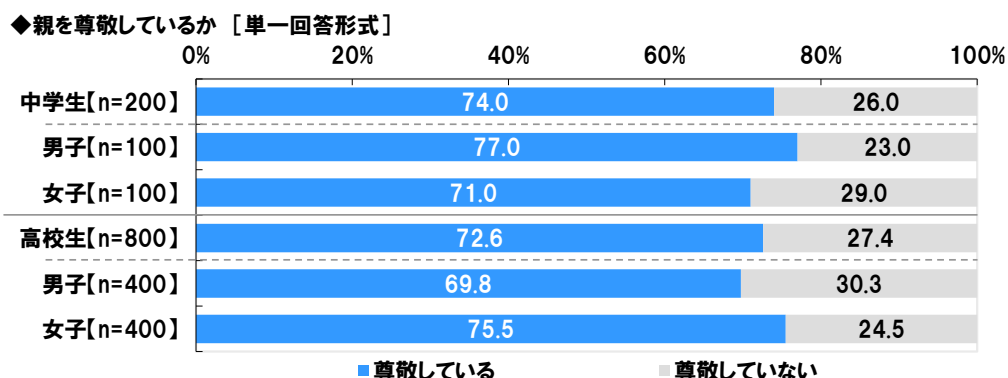
（図 21）



親を尊敬しているか聞いたところ、中学生では「尊敬している」が 74.0%、高校生では「尊敬している」が 72.6%となりました。中高生の大半が自身の親を敬う気持ちを抱いているようです。

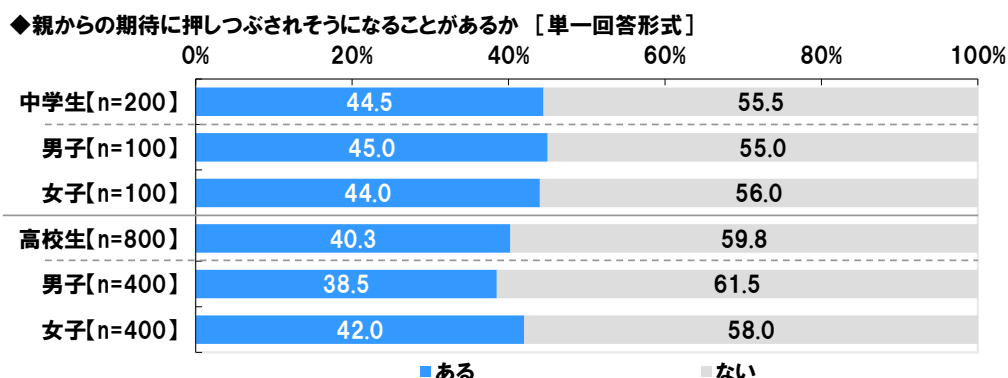
男女・学校別にみると、「尊敬している」と回答した人の割合は、男子中学生(77.0%)が最も高くなりました。（図 22）

（図 22）



親からの期待に押しつぶされそうになることがあるか聞いたところ、中学生では「ある」が 44.5%、高校生では「ある」が 40.3%となり、いずれも半数近くが親からのプレッシャーを重く感じていることがわかりました。（図 23）

（図 23）



NEWS LETTER (調査レポート)

【先生に対する中高生の評価】

◆クラス担任への評価(5段階評価)の平均点

「学校行事に積極的に取り組んでいる」中学生では 3.87、高校生では 3.58

「生徒と積極的にコミュニケーションをとっている」中学生では 3.71、高校生では 3.52

全回答者(中学生 200 名、高校生 800 名)に、自身のクラス担任の先生について、5 段階(1=「全くできていない」、2=「あまりできていない」、3=「ふつう」、4=「よくできている」、5=「非常によくできている」)で評価してもらいました。

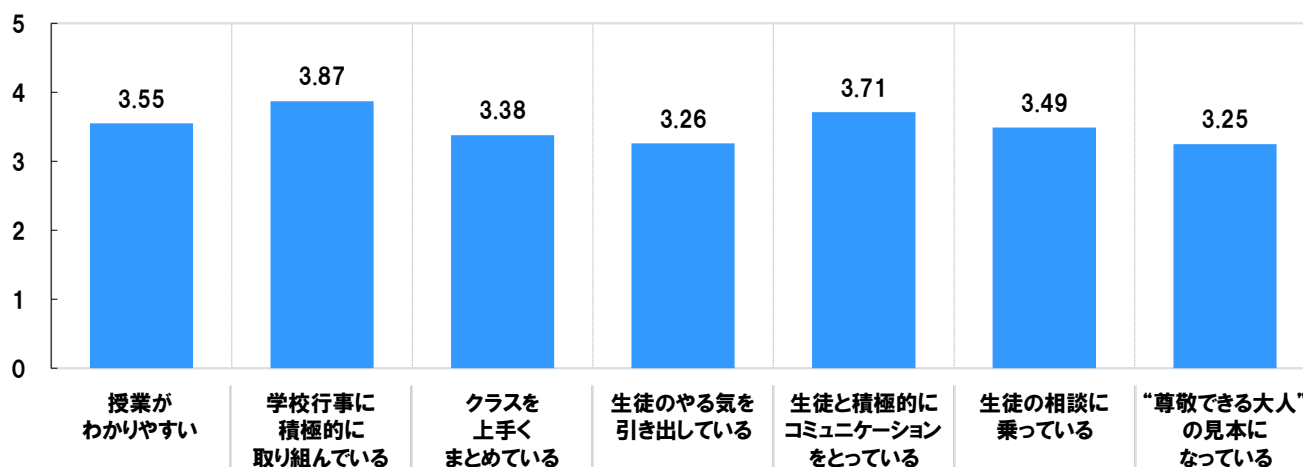
中学生のクラス担任に対する評価の平均点は、《授業がわかりやすい》では 3.55、《学校行事に積極的に取り組んでいる》では 3.87、《クラスを上手くまとめている》では 3.38、《生徒のやる気を引き出している》では 3.26 となりました。また、《生徒と積極的にコミュニケーションをとっている》では 3.71、《生徒の相談に乗っている》では 3.49、《“尊敬できる大人”の見本になっている》では 3.25 でした。

《学校行事に積極的に取り組んでいる》(3.87)、《生徒と積極的にコミュニケーションをとっている》(3.71)では、評価が他の項目と比較しやや高くなりました。(図 24)

(図 24)

◆クラス担任の先生に対する5段階評価の平均点 [各単一回答形式]

※1=「全くできていない」、2=「あまりできていない」、3=「ふつう」、4=「よくできている」、5=「非常によくできている」として集計
中学生[n=200]



NEWS LETTER (調査レポート)

高校生のクラス担任に対する評価の平均点は、《授業がわかりやすい》では 3.43、《学校行事に積極的に取り組んでいる》では 3.58、《クラスを上手くまとめている》では 3.21、《生徒のやる気を引き出している》では 3.13 でした。《生徒と積極的にコミュニケーションをとっている》では 3.52、《生徒の相談に乗っている》では 3.35、《“尊敬できる大人”の見本になっている》では 3.13 となり、平均点はすべての項目で中学生より低くなりました。

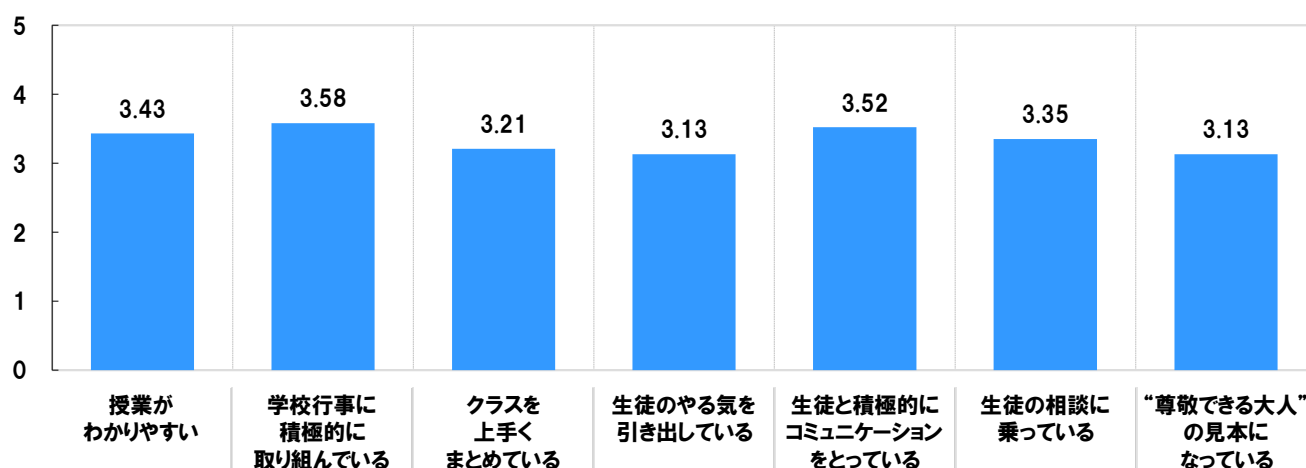
中学生の結果と同様、《学校行事に積極的に取り組んでいる》(3.58)、《生徒と積極的にコミュニケーションをとっている》(3.52)では、評価が他の項目と比較しやや高くなりました。

中高生にとって、クラス担任の先生は、学校行事をともに盛り上げる、親しみやすい身近な存在となっているのではないのでしょうか。(図 25)

(図 25)

◆クラス担任の先生に対する5段階評価の平均点 [各単一回答形式]

※1=「全くできていない」、2=「あまりできていない」、3=「ふつう」、4=「よくできている」、5=「非常によくできている」として集計
高校生[n=800]



NEWS LETTER (調査レポート)

【中高生が選ぶ有名人・アーティスト】

◆中高生が“将来のことを相談したい”と思う有名人

男子 1 位は「HIKAKIN さん」、女子 1 位は「マツコ・デラックスさん」

“将来のことを相談したい”と思う有名人を聞いたところ、1 位「HIKAKIN さん」、2 位「大谷翔平さん」「マツコ・デラックスさん」、4 位「アンミカさん」、5 位「明石家さんまさん」となりました。

男女別にみると、男子の回答では 1 位「HIKAKIN さん」、2 位「大谷翔平さん」、3 位「明石家さんまさん」、女子の回答では 1 位「マツコ・デラックスさん」、2 位「大谷翔平さん」「アンミカさん」「大森元貴さん」となりました。

選んだ理由を聞いたところ、男子の回答 1 位の HIKAKIN さんについては「困難も成功も知っていそうだから」(男子高校生)や「優しくアドバイスしてくれそうだから」(男子高校生)、女子の回答 1 位のマツコ・デラックスさんについては「思ったことをはっきり伝えてくれて相談に乗ってくれそうだから」(女子高校生)や「ほしい言葉をくれる気がするから」(女子中学生)といった回答がみられました。(図 26)

(図 26)

◆“将来のことを相談したい”と思う有名人 [自由回答形式]

※上位10位まで、男女別は上位5位までを表示

	全体(n=1000)	名		男子(n=500)	名
1位	HIKAKIN	23	1位	HIKAKIN	19
2位	大谷翔平	20	2位	大谷翔平	13
	マツコ・デラックス	20	3位	明石家さんま	9
4位	アンミカ	14	4位	カズレーザー	8
5位	明石家さんま	13	5位	アンミカ	7
6位	櫻井翔	10			
7位	大森元貴	9			
8位	カズレーザー	8			
9位	イチロー	7			
10位	出川哲朗	6			
	河野玄斗	6			
	やす子	6			

	女子(n=500)	名
1位	マツコ・デラックス	16
	大谷翔平	7
2位	アンミカ	7
	大森元貴	7
5位	櫻井翔	6

NEWS LETTER (調査レポート)

◆中高生が“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人 男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」

“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人を聞いたところ、1 位「大谷翔平さん」、2 位「HIKAKIN さん」、3 位「大森元貴さん」、4 位「明石家さんまさん」「橋本環奈さん」となりました。

男女別にみると、男子・女子ともに 1 位は「大谷翔平さん」となり、男子の回答では 2 位「HIKAKIN さん」、3 位「出川哲朗さん」、女子の回答では 2 位「橋本環奈さん」、3 位「大森元貴さん」が続きました。

選んだ理由を聞いたところ、男子・女子ともに 1 位の大谷翔平さんについては「世界で活躍する人の気持ちの作り方を学びたい」(男子高校生)、「努力でプロ野球選手になっているから」(男子中学生)、「礼儀正しいから」(女子高校生)や「高校生の時に立てた目標を、大人になった今、着々と成功させていっているから」(女子中学生)といった回答がみられました。(図 27)

(図 27)

◆“将来、こういう大人になりたい”と思う有名人 [自由回答形式] ※上位10位まで、男女別は上位5位までを表示

全体(n=1000)			男子(n=500)		
	名			名	
1位	大谷翔平	59	1位	大谷翔平	38
2位	HIKAKIN	23	2位	HIKAKIN	21
3位	大森元貴	14	3位	出川哲朗	7
4位	明石家さんま	9	4位	大森元貴	6
	橋本環奈	9		明石家さんま	6
6位	平野紫耀	8		イチロー	6
7位	芦田愛菜	7			
	出川哲朗	7			
9位	星野源	6			
	カズレーザー	6			
	マツコ・デラックス	6			
	イチロー	6			

女子(n=500)		
	名	
1位	大谷翔平	21
2位	橋本環奈	9
3位	大森元貴	8
4位	芦田愛菜	7
5位	北川景子	5

NEWS LETTER (調査レポート)

◆中高生が“推したい”と思うアーティスト・アイドル TOP3 「Mrs. GREEN APPLE」「嵐」「Snow Man」

“推したい”と思うアーティスト・アイドルを聞いたところ、1 位「Mrs. GREEN APPLE」、2 位「嵐」、3 位「Snow Man」、4 位「米津玄師さん」、5 位「TWICE」となりました。

男女別にみると、男子・女子ともに 1 位は「Mrs. GREEN APPLE」となり、男子の回答では 2 位「嵐」、3 位「米津玄師さん」、女子の回答では 2 位「Snow Man」、3 位「嵐」が続きました。

選んだ理由を聞いたところ、男子・女子ともに 1 位の Mrs. GREEN APPLE については「歌詞が元気づけてくれるから」(男子中学生)や「常にファンのことを第一に考えているから」(女子高校生)、「音楽で遊んでいるから」(女子中学生)、「自分たちの信念に基づき、精力的に活動しているから」(男子高校生)といった回答がみられました。(図 28)

(図 28)

◆“推したい”と思うアーティスト・アイドル [自由回答形式] ※上位10位まで、男女別は上位5位までを表示

	全体(n=1000)	名
1位	Mrs. GREEN APPLE	66
2位	嵐	28
3位	Snow Man	27
4位	米津玄師	14
5位	TWICE	13
6位	King & Prince	12
7位	いれいす	11
8位	YOASOBI	10
	SEVENTEEN	10
	timelesz	9
	HANA	9
10位	back number	9
	BTS	9
	SixTONES	9

	男子(n=500)	名
1位	Mrs. GREEN APPLE	37
2位	嵐	15
3位	米津玄師	11
4位	Snow Man	9
5位	YOASOBI	8

	女子(n=500)	名
1位	Mrs. GREEN APPLE	29
2位	Snow Man	18
3位	嵐	13
4位	King & Prince	11
	いれいす	11

NEWS LETTER (調査レポート)

注: 本調査レポートの百分率表示は小数点第 2 位で四捨五入の丸め計算を行っているため、

合計しても 100% とならない場合がございます。

また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n 数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

《調査概要》

- ◆調査タイトル : 中高生が思い描く将来についての意識調査2025
- ◆調査対象 : ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする全国の中高生
- ◆調査期間 : 2025年6月6日～6月16日
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆調査地域 : 全国
- ◆有効回答数 : 1,000サンプル(有効回答から中学生200s、高校生800sになるように抽出)
(内訳)

	中学生	高校生	計
男子	100s	400s	500s
女子	100s	400s	500s

- ◆調査協力会社: ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、

「ソニー生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問い合わせ窓口■■

ソニー生命保険株式会社 調査広報部 広報課

電話番号 : 03-5290-6228

メールアドレス : press@sonylife.co.jp

■■会社概要■■

- 会社名 : ソニー生命保険株式会社
- 代表者名 : 代表取締役社長 高橋 薫
- 設立 : 1979(昭和 54)年 8 月
- 所在地 : 東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
- 業務内容 : 生命保険業